

No.039 日本語教育プログラムの理解と実践

問題1 下の文章を読み、あとの問い（問1～問5）に答えよ。

2022年、文化庁は〔（ア）〕をもとに（A）「日本語教育の参照枠」を作成した。これにより、（B）さまざまな効果が期待されている。

「日本語教育の参照枠」は（C）行動中心アプローチを理念の基盤としながら、参照枠の枠組みの根底を支える理念として（D）言語教育観の三つの柱を掲げている。

問1 文章中の〔（ア）〕に入るものとして最も適当なものを、下の1～4の中から一つ選べ。

- 1 JEES 2 CEFR 3 ACTFL 4 MEXT

問2 文章中の下線部（A）「日本語教育の参照枠」の定義に**含まれていないもの**を、下の1～4の中から一つ選べ。

- 1 自律的な日本語学習者の育成
- 2 学習段階に応じた教育内容
- 3 日本語学習、教授、評価のための枠組み
- 4 言語・文化の相互理解・相互尊重

問3 文章中の下線部（B）「さまざまな効果」に関して、期待されている効果として**正しくないもの**を、下の1～4の中から一つ選べ。

- 1 複数の日本語能力の判定試験の間の通用性が高まる。
- 2 適切な日本語教育を継続的に受けられる。
- 3 具体的な教育活動の設計や評価が可能になる。
- 4 各教育機関や行政機関独自の教育体制が促進される。

問4 文章中の下線部（C）「行動中心アプローチ」では、学習者をどのようにとらえているか。最も適当なものを、下の1～4の中から一つ選べ。

- 1 様々な課題を遂行する社会的存在
- 2 自ら未来を切り開いていく自律的存在
- 3 多様な社会に参加する社交的存在
- 4 高い問題解決能力を持った能動的存在

問5 文章中の下線部(D)「言語教育観の三つの柱」に含まれる内容として**正しくないもの**を、下の1～4の中から選べ。

- 1 目標設定を個別に行うことを重視する。
- 2 言語を使って「できること」に注目する。
- 3 言語の習得は、それ自体が目的ではなく手段である。
- 4 母語話者が使用する日本語を最終的なゴールとする。

問題2 下の文章を読み、あとの問い（問1～問5）に答えよ。

「日本語教育の参照枠」は、大きく「日本語教育の参照枠」として示す範囲」と「分野別の言語能力記述文（Can do）」に分かれる。このうち、「日本語教育の参照枠」で示す範囲は、（A）全体的な尺度、（B）言語活動別の熟達度、言語能力記述文にあたる。言語能力記述文について「日本語教育の参照枠」は、さらに（C）活動 Can do、方略 Can do、テキスト Can do、能力 Can do という4つの言語能力記述文を示している。

また、CEFR にはない「日本語教育の参照枠」の特徴として、（D）漢字を含む文字の扱いがある。日本語の場合、欧米諸語とは異なり、ひらがな、かたかな、漢字といった様々な文字種があり、文字数も膨大である。特に、漢字については、欧米諸語にはないものであるため、扱いについて独自の方針が必要である。

さらに、「日本語教育の参照枠」は、言語教育観に基づいた評価を行うため、（E）評価の三つの理念を掲げている。

問1 文章中の下線部（A）「全体的な尺度」について述べた文として正しいものを、下の1～4の中から一つ選べ。

- 1 A-C レベル（上級）、D-E レベル（初級～中級）、F-G レベル（入門）があり、それぞれ試験に合格することで判定される。
- 2 基本的な日本語の理解力を示す N5 から幅広い場面での日本語の理解力を示す N1 まであり、各レベルの試験の可否で判定される。
- 3 可否の判定はなく、800 点満点のテストの点数に応じて J5（0～199 点）から J1+（600～800 点）の6段階のレベルで評価される。
- 4 大きく基礎段階の言語使用者、自立した言語使用者、熟達した言語使用者、さらに各段階が2つに分かれた、計6段階からなる。

問2 文章中の下線部（B）「言語活動別の熟達度」に関して、言語活動の組み合わせとして正しいものを、下の1～4の中から一つ選べ。

- 1 聞くこと、読むこと、やりとり、発表、書くこと
- 2 一般的能力、言語能力、言語活動、言語方略
- 3 受容、産出、やり取り、仲介
- 4 語彙、文法、意味、音声

問3 文章中の下線部（C）「活動 Can do」の説明として最も適切なものを、下の1～4の中から一つ選べ。

- 1 言語能力、社会言語能力、言語運用能力という3つの観点から構成される。
- 2 計画、補償、モニタリングと修正という3つの観点から尺度を示している。
- 3 ディスコース（談話構成）能力と機能的な能力からなり、前者はさらに4つの項目からなる。
- 4 言語能力記述文は条件行動、話題・場面、対象という4つの要素から構成される。

問4 文章中の下線部（D）「漢字を含む文字の扱い」に関して、漢字学習方針として**正しいもの**を、下の1～4の中から一つ選べ。

- 1 漢字の成り立ちや意味など、漢字に興味を持たせる工夫をすること。
- 2 漢字圏学習者か非漢字圏学習者かによる指導上の留意点を踏まえて指導すること。
- 3 各段階で示された漢字について意味、読み、書きをバランスよく習得すること。
- 4 自律学習につなげるための学習方法や学びを促進する活動を行うこと。

問5 文章中の下線部（E）「評価の三つの理念」に関して、評価の三つの理念として**正しいもの**を、下の1～4の中から一つ選べ。

- 1 生涯にわたる自律的な学習の促進
- 2 評価活動の公正な運用と評価結果の適切な解釈
- 3 評価基準と評価手法の透明性の確保
- 4 学習の目的に応じた多様な評価手法の提示と活用推進